

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第4区分
 【発行日】平成19年4月5日(2007.4.5)

【公表番号】特表2007-503530(P2007-503530A)
 【公表日】平成19年2月22日(2007.2.22)
 【年通号数】公開・登録公報2007-007
 【出願番号】特願2006-532957(P2006-532957)
 【国際特許分類】

C 2 2 C 19/03 (2006.01)
C 2 2 C 5/04 (2006.01)
C 2 3 C 26/00 (2006.01)
C 2 3 C 28/00 (2006.01)
F 0 1 D 5/28 (2006.01)
F 0 2 C 7/00 (2006.01)

【F I】

C 2 2 C	19/03	G
C 2 2 C	5/04	
C 2 3 C	26/00	B
C 2 3 C	28/00	B
F 0 1 D	5/28	
F 0 2 C	7/00	C
F 0 2 C	7/00	D

【手続補正書】

【提出日】平成19年1月22日(2007.1.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

Pt族金属、NiおよびAlを、合金全体に渡って $Ni + Ni_3Al$ の2相構造が生成する相対比率で含んで成る合金。

【請求項2】

請求項1において、上記Pt族金属がPt、Pd、Ir、Rh、Ruおよびこれらの組合せから成る群から選択される合金。

【請求項3】

請求項1において、上記Pt族金属がPtである合金。

【請求項4】

請求項1において、Hf、Y、La、Ce、Zrおよびこれらの組合せから成る群から選択した反応元素を更に含有する合金。

【請求項5】

請求項4において、上記反応元素がHfである合金。

【請求項6】

請求項1において、Cr、Co、Mo、Ta、Reおよびこれらの組合せから成る群から選択した金属を更に含有する合金。

【請求項7】

請求項1において、23at%未満のAl、10at%～30at%のPt族金属、および残

部の N i を含んで成る合金。

【請求項 8】

請求項 7 において、上記 P t 族金属が P t である合金。

【請求項 9】

請求項 8 において、H f、Y、L a、C e、Z r およびこれらの組合せから成る群から選択した反応元素を、2 at% 以下の量で更に含有する合金。

【請求項 10】

請求項 9 において、上記反応元素が H f である合金。

【請求項 11】

請求項 1 において、10 at% ~ 22 at% の A l および 15 at% ~ 30 at% の P t 族金属を含んで成り、該 P t 族金属が P t である合金。

【請求項 12】

請求項 11 において、0.3 at% ~ 2 at% の H f を更に含有する合金。

【請求項 13】

請求項 12 において、H f の含有量が 0.5 at% ~ 2 at% である合金。

【請求項 14】

基材上の被膜であって、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の合金を含んで成る被膜。

【請求項 15】

請求項 14 において、上記基材が金属である被膜。

【請求項 16】

下記：

(a) 超合金基材、

(b) 上記基材上の接合被膜であって、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の合金を含んで成る接合被膜
を含んで成る、熱障壁被膜付き製品。

【請求項 17】

請求項 16 において、上記接合被膜上に密着酸化物層を有する製品。

【請求項 18】

請求項 17 において、上記密着酸化物層上にセラミクス被膜を有する製品。

【請求項 19】

請求項 16 において、上記接合被膜が厚さ 5 μ m ~ 100 μ m である製品。

【請求項 20】

耐熱基材の製造方法であって、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項記載の合金を含んで成る被膜を該基材に被覆する工程を含んで成る方法。